

東久留米市立図書館協議会による平成 28 年度図書館事業評価

図書館協議会では、平成 25 年度事業は「資料収集・選書」「中央図書館のサービス」「地区館のサービス」「東久留米に関する資料の収集と関連事業について」「子ども読書活動」の 5 領域を、平成 26 年度事業は「資料収集・選書」、平成 27 年度事業は「イベント事業」について評価を行いました。

平成 28 年度は、中央図書館、地区館ともに新しいニーズに応えた新規の事業に取り組みました。しかしながら、図書館登録率の向上は見られなかったことから、これらの取り組みが図書館利用の拡大につながったのか、考える必要があります。そのため、平成 28 年度事業については、新規事業への評価とあわせて、図書館利用の拡大について、市民・利用者・専門家としての視点から協議を行い、意見をまとめました。

1. 図書館利用者の拡大について

- 新しいニーズや進化した図書館の役割に対し、新規の事業に取り組んだことは評価できる。
- 各図書館で、それぞれの地域のニーズを踏まえつつ取り組みを工夫しており、「まさに図書館がある」姿がわかる。図書館から離れる時期があっても図書館が存在することを経験しておくことが大事である。
- 図書館事業全体で、すでに利用している人ばかりでなく、図書館利用のすそ野を広げていくことが大事だと考える。
- 図書館利用の促進について、子ども時代の取り組みが重要である。小学生の時期に読書に親しみ、また図書館利用の経験を積むことは、将来の図書館利用につながり、生涯にわたる図書館利用の基礎となる。
- 図書館利用をしていない市民への働きかけが必要である。図書館の外への広報、転入手続き時の案内やブックスタート実施時の案内、ホームページでの発信などに引き続き取り組む必要がある。
- 何か新しいことを始めようとする時、図書館はとても役に立つ。わからないことは図書館で解決できるという役割を知らせていくとよい。
- 静かにゆっくり利用したいという通常時の利用者の増加が大事である。イベントなど大勢で楽しむ一方、マイペースで普通に使えるという視点で利用を促進したい。
- 図書館利用のすそ野をひろげ、利用者を増やす方策を、図書館、図書館協議会（市民）が共に考えていく。

2. 新たな事業について

○ ウィキペディアタウン

実際のワークは難しく対象が限定されるかもしれないが、学校の調べ学習と同様で、図書館事業としては評価できる。今後、ジャンルを拡げて継続的にやっていくのがよいと考える。

○ シリーズ図書館のドア

「ユニバーサルデザインと図書館」の内容はよい。学校でも、どの子どもにとっても「わかる・楽しめる」授業に取り組んでおり、図書館事業の視点として重要である。

修理のサポーターを継続していくという事だが、それ以外にも発展させていくとよい。社会貢献したい市民の活力を活かすことができるとよい。

○ 子ども読書応援団

東久留米市子ども読書活動推進計画ではボランティアと協働した子ども読書応援団を作るとしている。子ども読書活動は、「子どもの広場」や「放課後子ども教室」などで本の楽しみを知ってもらう活動を取り入れてもよいのではないかな。

○ 図書の展示

1つの本を軸に関連図書を集める展示などの工夫は興味深く、図書館へ足を運ぶきっかけになる。

○ 保育付き事業

ひばりが丘団地の再開発が進み、子育て世代が増加している。図書館が子育て支援に力を入れ、利用を伸ばしていることは評価できる

○ 古本市

新たな取り組みとして評価できる。今後、図書館事業のコストを下げる意味でも、スポンサーの募集なども工夫してはどうか。

平成２８年度 東久留米市立図書館新規事業及び自己評価

	事業名	事業概要	実績	自己評価・課題
中央	ウィキペディアタウン i n 東久留米 (第１回、第２回)	誰でも編集できるウェブのフリー百科事典・ウィキペディアに地域の記事を作成・編集するイベント。 オープンデータの考え方や編集方針について学び、まち歩きと図書館での文献調査ののち、東久留米の項目の編集・登録を行い、オープンデータとして公開。 なお、本事業は今後も継続して実施予定。	■第１回 平成２８年９月２８日（日） 講師：日下九八氏（ウィキペディア日本語版編集者） 参加者：２１名 登録記事：「多聞寺・共立学校」「氷川神社（南沢）」「南沢湧水群」「東久留米市立図書館」 ■第２回 平成２９年３月２６日（日） 講師：ウィキペディア日本語版編集者 参加者：１６名 登録記事：「神明社」「米津寺」「米津氏」「落合川」「南沢獅子舞」 本事業を契機に参加者が執筆した「柳窪」の記事が、ウィキペディアの優良記事に選ばれた。	これまでも、図書館の役割を「読書のための本の貸出」のみとせず、「市民の生活上の課題解決や情報リテラシーの向上」において、図書館事業を展開してきた。本事業は、情報提供と学習支援（レファレンス業務）、地域資料収集・提供において必要な事業と位置付け、事業を実施した。 成果としては、オープンデータであるウィキペディアの特色を学習し、実際に記事を作成することにより、百科事典や著作権への理解を実践的にすすめ、参加者のリテラシーの向上が図れた。また、まち歩きを行い、地域の情報を実際に発信することができ、地域の郷土史研究家や文化財担当の積み重ねた成果とウェブ上の情報を繋ぐことができた。合わせて、図書館のレファレンス担当、地域資料担当の資料の見直しやスキルアップの機会となった。 課題としては、ウェブ上の百科事典であるという特性からも、インターネット環境（Wi-Fi 環境）の整備が必須である。（平成 29 年 8 月より中央図書館では公衆無線 LAN の運用を開始）また、事業に継続性を持たせ、理解を深めるためにも、リピーターやウィキペディアンへの参加を促す必要がある。
	シリーズ図書館のドア～となりに図書館、あります。 ①図書館にはいろいろなドアがある ②ユニバーサルデザインと図書館 ③本のつくりを知る～豆本づくり ④本の修理体験&バックヤードツアー	図書館のあらたな可能性を探り、市民の学習に資料情報を提供する図書館の働きを PR するために「図書館のドア」と題して、講演会を開催。 ①図書館の可能性のドアとして、本の紹介や図書館改造など講師の長年の活動からみた図書館の役割について考える。 ②ユニバーサルデザインという観点から、実践事例を踏まえながらこれからのまちや図書館について考える。 ③豆本づくりを通じて、本のつくりを学ぶ。 ④実際に本の修理を体験するとともに、図書館のバックヤードを見学することで、図書館を知る。 ③④は今後、図書館サポーターとして「本の修理」に携わる市民の養成に繋げる。 なお、本シリーズ事業は今後も継続して実施予定。	①図書館にはいろいろなドアがある 平成２９年２月１８日（土） 講師：赤木かん子氏（児童文学評論家） 参加者：５３名 ②ユニバーサルデザインと図書館 平成２９年２月２７日（月） 講師：関根千佳氏（同志社大学政策学部教授・(株) ユーディット会長兼シニアフェロー） 参加者：３９名 ③本のつくりを知る～豆本づくり 平成２９年１月２１日（土） 講師：稲山ますみ氏（日本豆本協会スタッフ・東京製本倶楽部会員） 参加者：７名 ④本の修理体験&バックヤードツアー 平成２９年３月３０日（木） 参加者：７名	いずれの事業も図書館の目的を明確に反映した内容であり、多くの参加者も得られ、その評価も好評であった。図書館の役割（いろいろなドア）を市民に浸透するには、今後も広報やイベント等を通じてアプローチし、利用の増加や利用方法の普及に努めていく必要がある。 なお、図書館サポーターのための講座は、着実にサポーター希望者を把握し、平成２９年度より修理活動を定例化する予定である。
	ティーンズ夏フェス サンセットライブラリーで頭脳ゲーム	夏フェスの企画として、閉館後の図書館内（書庫や開架室等）を使用し、グループに分かれて問題を解くゲームを通して、図書館資料や検索方法などについて学習する。	平成２８年７月３０日（土） 参加者：７名（中高生限定）	閉館後の図書館内を使用したイベントは今回が初めてであり、現役の中高生が参加したことは、これまでにない成果といえる。図書館の利用教育を目的とした中高生向けイベントとして、対象利用者の多い夏休み期間中に閉館後のイベント開催とし、特別感を演出したことで一定の成果をあげたと考える。 参加者は幼少期からの図書館利用者で、本や図書館に関心の高い層であったが、今後は、この層の子どもたちが運営側に参加できる仕組みを工夫し、中高生にマッチした事業展開としていきたい。

	事業名	事業概要	実績	自己評価・課題	
中央	「語ろう！東久留米」記録冊子の発行と頒布	東久留米市の現代史を、市民の体験により語ってもらい、オーラルヒストリーとして記録する事業である「語ろう！東久留米」は平成２６年度より実施し、平成２８年度までに４回開催している。 この記録を冊子としてまとめ、頒布する事業を開始。	平成２９年４月３０日現在の頒布実績 ■第１回「語ろう！東久留米　５０年前の東久留米の学校と子どもたちの生活」（平成２８年８月頒布開始） 頒布実績：５１冊 ■第２回「語ろう！東久留米　戦後７０年を迎えて」（平成２８年１０月頒布開始） 頒布実績：３０冊 ■第３回「語ろう！東久留米　東久留米と戦争」（平成２９年３月頒布開始） 頒布実績：２冊	「語ろう」の講演会とあわせた案内や、館内掲示等で PR することで、発刊のたびに買い求める市民もあり、事業として定着していることが伺える。今後も東久留米市の歴史を継承するため、幅広いテーマで講演会を開催し、冊子作成と頒布を継続する。	
滝山	「滝山・前沢みんなのまちのゼミナール（まちゼミ）」への参加	地域の活性をめざす「まちゼミ」企画に参加・協力することで、地域に根差した図書館活動を推進する。 ①エントリーした２２講座のオススメ図書リストの作成・配置及び図書館内でのコーナー展示 ②本の修理体験講座「本のお医者さん」を開催	①エントリーされた各講座のオススメ図書リストの作成・配置及び図書館内でのコーナー展示 ■第３回まちゼミ 平成２８年６月 展示図書の貸出実績：のべ３７冊 ■第４回まちゼミ 平成２９年２月 展示図書の貸出実績：のべ６６冊 ②本の修理体験講座「本のお医者さん」（全２回・２日間） 平成２９年２月 参加者：９名	【地区館自己評価】 ・コーナー展示・貸出により、「まちゼミ」全体の認知度アップに貢献した。 ・本の修理体験講座は、地域の方に図書館への一層の理解と関心を深めていただくよい機会となった。	【評価・課題】 ３地区館では、地域事業への参加や地域特性に応じた新規事業を実施しているが、図書館として参加もしくは実施することの意味について、図書館の設置目的や東久留米市教育振興基本計画の内容に合致しているか再考する必要がある。 なお、古本市については指定管理者であることを活かした取り組みとなっており評価できる。
ひばりが丘	映画「うまれる」上映会	ひばりが丘図書館の特性であり、強化分野でもある「子育て」について地域全体で考える機会を図り、明るいまちづくりに貢献する。 午前の部はパパママタイムとし、赤ちゃんの泣き声は BGM として気兼ねなく参加してもらえるよう配慮し、プレイスペースを会場内に設置。また、別室にて保育を実施。（自社関連会社より専門の保育スタッフを派遣）	平成２９年１月２２日（日） 午前の部（対象：子育て世代　パパママタイム） 参加者：２６名 午後の部（対象：一般） 参加者：２４名 市内で活動する映画クラブによる上映機材の操作協力	【地区館自己評価】 ・参加費（２０歳以上５００円）を徴収する講座の開催は初めてであったが、苦情はなく、満足された反応が得られた。 ・保育申込みはすぐに定員に達し、ニーズがあることが知れた。 ・課題は、参加人数が伸びなかったことであり、次回開催の際は規模を縮小するが、宣伝方法を改善する。	
東部	古本市の開催	「東部地域センターまつり」に参画することで、地域住民の方との交流を深める。また、販売によって得られた利益を寄贈者に見える形で還元する。	販売用寄贈本の受付期間：平成２８年８月１日～９月８日 期間内に寄贈された冊数：９７１冊 価格設定：５０円／冊　…　単行本・絵本・漫画 ３０円／冊　…　文庫・新書・雑誌 陳列した冊数（比較的状态の良いもの）：４３３冊 売上冊数：２２０冊 売上金額：８，５６０円 購入品：荷物置き（東部図書館カウンター設置） 図書館受入資料：１０８冊（残りはリサイクルへ）	【地区館自己評価】 ・近隣で活動している様々な団体や人々の地域に対する思いを知ることができた。 ・チラシを配布したことで、予想を超える寄贈があった。それに対し、本の数が少ないという声もあった。 ・「図書館へ本を寄贈できる」ことを知った方もいた。	